**1 宮本　輝『十冊の文庫本』**

ある日、母とのⓐ繁華街へ行った。何の用事で出掛けたのかは覚えていない。とにかく二十年も昔のことである。商店街のⓑミチバタで、男を敷いてっていた。茣蓙の上には無数の古い雑誌や本が乱雑に置かれていた。その中に、で汚れた文庫本が十冊ずつ一組にされてで束ねられてあった。値段をくと、どれも一組五十円だという。母に買ってくれと頼むと、母は財布から十円玉を五つ出した。五十円とて、私たちにとっては大金だったのである。私は男に、好きな本を十冊選ばせてくれと言った。男は邪魔くさそうな顔をして、

「あかん、あかん、なんぼや。そんなことされたら、全部紐をほどかなあかんやないか」

と言った。私は、①ほどいた紐は全部自分でくくりなおすからとねばった。男はしぶしぶⓒショウチした。確か十五、六束並べられていた文庫本の中から、私は十冊を選び出し、残りの全部の束がそれぞれ十冊となるようにして紐でしばりなおした。それは随分時間のかかる面倒な作業であったが、ともかくも十冊の自分の本を手にすることができたのである。レマルク「」、ドストエフスキー「貧しき人々」、カミュ「ⓓ異邦人」、ダビ「北ホテル」、石川「」、高山「滝口入道」、　　Ａ　　「たけくらべ」、「美徳のよろめき」、「猟銃・闘牛」、「あらくれ」。この十冊であった。そしてこれは私が読んだ十冊の文庫本の順番をも意味している。凱旋門を最初に読み、次は貧しき人々を読み、そして異邦人をという具合である。この中で中学生が読むものといえば「たけくらべ」ぐらいだったろう。なぜなら、その一部は国語の教科書に載っていたからである。なぜ、その十冊を、　　　　　　　　　Ｂ　　　　　　　　　に耐えながら選び出したのか、それも遠い昔のこととて覚えてはいない。だが、露店の茣蓙の上から選びだし、私が中学二年か三年の終わりにかけて、②それら十冊の文庫本を何度も何度も読み返したことは、③何か不思議な天恵であると同時に宿命でもあったのだと思えてならないのである。私はなんと見事に名作ばかり選びだしたことであろう。なんと見事に、かたよった読書からまぬがれ得たことだろう。そしてなんと見事に、最も純粋で吸収力の強い年代に、それらとめぐり合ったことであろう。そのことを不思議と言わずして何と言うべきか。「貧しき人々」は、それから二十年後、私に「」を書かせた。他の九冊も私のこれまでの作品に、そしてこれからの作品に影響を与えていくに違いない。私は十冊の文庫本に登場する人々から、何百、いや何千もの人間の苦しみやびを知った。何百、何千もの風景から、世界というものを知った。何百、何千ものちょっとした会話から、心の動き方を教わった。たった十冊の小説によってである。

語　注

梅田＝大阪市北区にある大阪駅や梅田駅を中心とした一帯。

茣蓙＝草茎を織ることによって作られた敷物。

問1　二重傍線部ⓐ〜ⓓのカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で記せ。（3点×4）

ⓐ〔　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　　〕　ⓓ〔　　　　　　〕

問2　空欄Ａに入る作者を次から選べ。（3点）

ア　森　　　　イ

ウ　　　エ

〔　　　〕

問3　空欄Ｂに入る表現として最も適当なものを次から選べ。（5点）

ア　男の貧相な子をあわれむような視線

イ　男の人をさげすむような冷たい視線

ウ　男の変わり者を見るような好奇な視線

エ　男の邪魔くささをあからさまにした視線

〔　　　〕

問4　傍線部①のように「ねばった」のはなぜか。その理由を述べた次の文の空欄に当てはまる表現を、本文中から三十字以内で抜き出せ。（10点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

ができる好機をなんとしても逃したくなかったから。

問5　傍線部②のように「何度も何度も読み返した」のはなぜか。最も適当なものを次から選べ。（10点）

ア　これまでに味わったことのない登場人物たちの緊迫した人間模様が、大変スリリングで興奮をかきたてるものだったから。

イ　初めて自分のものとなった小説のに触れ、人間の苦しみや歓びを見事に描いた作品の一言一句に夢中になったから。

ウ　厳しい家計をやりくりし、せっかく買ってもらったありがたい本なので一読するだけではとてももったいないと思ったから。

エ　すでに小説家を目指していた私にとって本格的な作品と出会えたことは、なによりも最高の教科書に成り得ると感じたから。

〔　　　〕

問6　傍線部③のように「思え」たのはなぜか。最も適当なものを次から選べ。（10点）

ア　この十冊の本との出会いが、後に作家となる自分にとって最高のとなったように思えたから。

イ　数多くの作品の中で見事な名作ばかりを選び出す天賦の才を与えられたかのように感じられたから。

ウ　天の声は、将来、思いあがったれの強い書き手とならぬように導いてくれたと思われるから。

エ　この十冊の本によって、今後、作家として立つべき道を天啓のごとく示されたように感じたから。

〔　　　〕

練習問題〈助数詞〉

次のそれぞれの物を数えるときの呼び方として、最も適当なものをそれぞれ後から選べ。

①　ウサギ （　　　）

②　牛 （　　　）

③　豆腐 （　　　）

④　食パン （　　　）

⑤　 （　　　）

⑥　 （　　　）

⑦　鏡 （　　　）

⑧　背広 （　　　）

⑨　詩 （　　　）

⑩　和歌 （　　　）

ア　一頭　　　イ　一着

ウ　一丁　　　エ　一

オ　一首　　　カ　一脚

キ　一羽　　　ク　一面

ケ　一斤　　　コ　一編

【解答】

問1　ⓐはんかがい　ⓑ道端　ⓒ承知　ⓓいほうじん

問2　イ

問3　エ

問4　面倒な作業であったが、ともかくも十冊の自分の本を手にすること（ができる好機をなんとしても逃したくなかったから。）（30字）

問5　イ

問6　ア

【練習問題解答】

①キ　②ア　③ウ　④ケ　⑤エ　⑥カ　⑦ク　⑧イ　⑨コ　⑩オ

【50字要約例】

私は二十年前に道端で選んだ十冊の小説から多くのことを教わり、今後も作家として影響を受け続けるだろう。（50字）

【補充設問】

問　傍線部●（それらとめぐり合った）の「それら」が指すものについて、次の空欄に当てはまる言葉を、本文中から二字で抜き出せ。

〔　　　　〕である十冊の文庫本

答　名作［である十冊の文庫本］

問　傍線部●（「貧しき人々」は、それから二十年後、私に「」を書かせた）とあるが、具体的にはどういうことか。解答欄に合うように、本文中の表現を用いて二十字程度で答えよ。

「錦繡」は〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕作品であるということ。

答　［「錦繡」は］例「貧しき人々」から影響を受けて書かれた［作品であるということ。］